⑵⑻　L-アルギニン
ア　製造用原体
(ｱ)　成分規格
含量　本品は、105℃で３時間乾燥した後、定量するとき、L-アルギニン（$C_6H_{14}N_4O_2$）98.0%以上を含む。
物理的・化学的性質
①　本品は、淡黄色～淡黄褐色の結晶又は結晶性の粉末で、僅かに特異な臭いを有する。
②　本品の水溶液又は水懸濁液（１→10）のpHは、10.5～12.0である。
確認試験
①　本品の水溶液（１→1,000）５mLにニンヒドリン試液１mLを加え、３分間加熱するとき、溶液は、赤紫色～紫色を呈する。
②　本品の水溶液（１→20,000）２mLに８-オキシキノリン試液１mL及びN-ブロムコハク酸イミド溶液（１→1,000）１mLを加えるとき、溶液は、赤黄色を呈する。
純度試験
①　比旋光度　本品を105℃で３時間乾燥し、その約４gを0.01gの桁まで量り、その数値を記録し、６mol/L塩酸試液に溶かし、50mLとし、メンブランフィルター（0.45μm）を用いてろ過し、この溶液の旋光度を測定するとき、$[\alpha]_D^{20}$＝＋25.5～＋29.5°でなければならない。
②　アンモニウム塩　アミノ酢酸製造用原体の純度試験③を準用する。この場合において、「0.1g」とあるのは「0.02g」と、「アンモニウム標準液２mL」とあるのは「アンモニウム標準液３mL」と読み替えるものとする（0.15%以下）。
③　重金属　本品1.0g（0.95～1.04g）を量り、重金属試験法第２法により試料溶液を調製し、鉛標準液2.0mLを用いて比較液を調製して重金属の試験を行うとき、試料溶液の呈する色は、比較液の呈する色より濃くてはならない（20μg/g以下）。
④　ヒ素　本品1.0g（0.95～1.04g）を分解フラスコに量り、硝酸10mL及び硫酸５mLを加え、静かに加熱する。溶液がなお褐色を呈するときは、放冷した後、硝酸１～２mLを追加して加熱し、溶液が無色～微黄色になるまでこの操作を繰り返す。放冷した後、過塩素酸0.5mLを加え、白煙が発生するまで加熱する。放冷した後、飽和シュウ酸アンモニウム溶液15mLを加え、再び白煙が発生するまで加熱する。放冷した後、水を加えて約10mLとし、これを試料溶液とし、装置Aを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、吸収液の色は、標準色より濃くてはならない（２μg/g以下）。
乾燥減量　1.0%以下（１g，105℃，３時間）
強熱残分　1.0%以下（１g）
定量法　本品を105℃で３時間乾燥し、その約0.2gを0.001gの桁まで量り、その数値を記録し、水0.5mL及び氷酢酸50mLを加えて溶かし、0.1mol/L過塩素酸で滴定する（指示薬　α-ナフトールベンゼイン試液１mL）。この場合において、滴定の終点は、溶液の橙黄色が帯黄緑色を経て緑色に変わるときとする。同様の方法で空試験を行い補正する。
0.1mol/L過塩素酸１mL＝8.710mg$C_6H_{14}N_4O_2$
(ｲ)　保存の方法の基準
遮光した密閉容器に保存すること。
イ　製剤
(ｱ)　成分規格
L-アルギニン製造用原体の成分規格を準用する。
(ｲ)　保存の方法の基準
L-アルギニン製造用原体の保存の方法の基準を準用する。

⑵⑼　イノシトール
ア　製造用原体
(ｱ)　成分規格
含量　本品は、105℃で４時間乾燥した後、定量するとき、イノシトール（$C_6H_{12}O_6$）97.0%以上を含む。
物理的・化学的性質
①　本品は、白色の結晶又は結晶性の粉末で、臭いはなく、甘味を有する。
②　本品は、水に溶けやすく、エタノール、エーテル及びクロロホルムにほとんど溶けない。
③　本品の水溶液（１→10）は、中性である。
④　本品は、旋光性がない。
確認試験
①　本品の水溶液（１→50）１mLに硝酸６mLを加え、水浴上で蒸発乾固し、残留物に硝酸ストロンチウム溶液（１→10）0.5mLを加え、再び水浴上で蒸発乾固するとき、残留物は、赤紫色を経て橙色を呈する。
②　本品の水溶液（１→100）４mLに次酢酸鉛試液１mLを加え、振り混ぜ、水浴中で５分間加熱するとき、溶液は、半透明のゲルとなる。
③　定量法で得たヘキサアセチルイノシトールの融点は、212～216℃である。
純度試験
①　溶状　本品1.0g（0.95～1.04g）に水10mLを加えて溶かすとき、その溶液は、無色で、澄明でなければならない。
②　融点　本品の融点は、223～227℃でなければならない。
③　塩化物　本品2.0g（1.95～2.04g）を量り、塩化物試験法により試料溶液を調製し、0.01mol/L塩酸0.30mLを用いて比較液を調製して塩化物の試験を行うとき、試料溶液の呈する混濁は、比較液の呈する混濁より濃くてはならない（0.005%以下）。
④　硫酸塩　本品4.0g（3.95～4.04g）を量り、硫酸塩試験法により試料溶液を調製し、0.005mol/L硫酸0.50mLを用いて比較液を調製して硫酸塩の試験を行うとき、試料溶液の呈する混濁は、比較液の呈する混濁より濃くてはならない（0.006%以下）。
⑤　重金属　本品1.0g（0.95～1.04g）を量り、重金属試験法第１法により試料溶液を調製し、鉛標準液2.5mLを用いて比較液を調製して重金属の試験を行うとき、試料溶液の呈する色は、比較液の呈する色より濃くてはならない（25μg/g以下）。
⑥　鉄　本品2.0g（1.95～2.04g）を量り、水40mLを加えて溶かし、塩酸２mL、過硫酸アンモニウム0.04g（0.035～0.044g）及びチオシアン酸アンモニウム試液２mLを加えるとき呈する色は、鉄標準液1.0mLを量り、水40mLを加え、以下試料の場合と同様に操作するとき呈する色より濃くてはならない（５μg/g以下）。
⑦　カルシウム　本品1.0g（0.95～1.04g）に水10mLを加えて溶かし、シュウ酸アンモニウム試液１mLを加え、１分間放置するとき、溶液は、澄明でなければならない。
⑧　フェーリング試液還元性物質　本品0.5g（0.45～0.54g）に水10mLを加えて溶かし、フェーリング試液５mLを加え、３分間煮沸した後、30分間放置するとき、橙黄色～赤色の沈殿を生じてはならない。
乾燥減量　0.5%以下（１g，105℃，４時間）
強熱残分　0.10%以下（１g）
定量法　本品を105℃で４時間乾燥し、その約0.2gを0.001gの桁まで量り、その数値を記録し、250mLのビーカーに入れ、希硫酸１mL及び無水酢酸50mLの混液５mLを加え、ビーカーを時計皿で覆い、水浴上で20分間加熱した後、氷冷する。次に、水100mLを加え、20分間煮沸し、放冷した後、ビーカーの内容物を250mLの分液漏斗に入れ、さ